

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271400404
法人名	雲南福祉サービス株式会社
事業所名	グループホーム 加茂の郷
所在地 (電話番号)	雲南市加茂町南加茂706-4 (電話) 0854-49-8426

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階
訪問調査日	平成19年9月7日

## 【情報提供票より】(19年 8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.4 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,340 円	

### (4) 利用者の概要( 8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立雲南総合病院、奥出雲コスモ病院、清水医院、山本歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れた小高い丘の中腹の広い敷地にあり、周りは豊かな緑に囲まれ、自然を身近に感じることができるホームである。建物内は広くゆったりとした造りで開放感を満喫できるとともに、使い慣れた品々を配置、金魚の飼育など、家庭的な雰囲気をも味わうことができる。また両ユニットともウッドデッキを設置し、気軽に庭に出かけられるなど、より家庭での生活を意識した造りとなっている。管理者、職員共に「利用者の気持ち」を第一に考え、日々のケアを行っている。入居者それぞれの生活歴、希望等の把握がなされ、当日も、それぞれを尊重した支援が随所に確認できたと同時に、今後更なるニーズへの対応について、職員体制を充実させる事をはじめ、随時協議するなど、ホーム全体として質の向上を目指す積極的な姿勢が見られた。地域交流の面でも、納涼祭を開催し、地元との関わりを強固にしていくなど取り組んでいるとともに、地域に根ざしたホーム作りを積極的に展開している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題の内、運営理念に関しては、ホーム内や事務所に掲示するなど、来訪する家族をはじめ、職員への周知も図るよう改善がなされている。介護計画に関する課題は、来訪する家族に意見を聞く機会を多く持ったり、個別に連絡を取り意見を聴取る等、計画に反映させるために、個々の状況にあわせ取り組んでいるとともに、それぞれの状況に合わせた見直しを行う等改善されている。他の課題についても改善がなされているが、入浴に関する課題については、現在取り組んでいるところである。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員ともに評価の意義を理解しており、この評価を基に、さらに質の向上を目指してこうとする積極的な姿勢が随所に見られる。「その人らしい生活の支援・・・」をはじめ、ホームの理念を基に、利用者本位の支援を実践しているとともに、地域との更なる連携も視野に入れ、地元根付いたホーム作り展開している。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 4ヶ月に1回定期的に開催し、活動報告や外部評価結果報告、防災についてや保険制度の説明等を行っている。会議中にでた意見や改善点については、次回の会議時に取り組みの経過報告を行うことで質の向上を目指している。また、地域への重要な情報発信の場として捉えている姿勢もうかがえる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の来訪時には声がけをし話す時間を多く持つなど、より多くの意見を聴取するよう取り組んでいる。利用者本人や家族等からだされた意見や苦情等は職員で話し合い共有し、入居者個々への対応にも反映させ、入居者を尊重した支援を行うよう取り組んでいるとともに、ホーム全体の運営に活かし、より質の向上を目指している。
	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム便りの配布をはじめ、ホーム主催の祭りへの参加呼びかけ、また地域の文化祭への参加等、地域住民と交流することに努めている。今後もGH利用者による地域貢献の機会を設けたり、ホームの行事の参加呼びかけ等、より地域との連携を強いものにしていくとする積極的な姿勢が見られる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を主体として考えられたこのホームの理念は、介護保険法改正により改められた地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっており、かつ分かりやすいものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のみを取り上げて話し合うことはないものの、日々のケアや会議の中で、常に理念に沿った内容を組み込み、理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭への参加や、お便りの配布など、地域の人々と関わりを持てるよう取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員ともに、評価実施の意義を理解している。よりホームの質向上を目指す上での手法の一つとして捉え、これを基に、積極的に改善を行う姿勢が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動報告、外部評価結果報告、保険制度の説明など行っている。また、前回協議した内容についての取り組み経過報告も行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市役所担当者へ連絡・相談し、密に連携をとり、問題や疑問はその都度解決するよう取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月「かも郷だより」を発行し、居室担当者がそれぞれ個々にメッセージを添えている。あわせて家族等訪問時にも日々の暮らし等の報告やケアプランの提示を行っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時や電話で聞いた、入居者や家族等からの意見・不満・苦情は、その都度苦情受付簿に記載し、その要因や課題について職員会議で協議する等、質の向上を目指した取り組みがなされている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	新しい職員には1ヶ月程度の見習い期間を設け、できるだけ利用者には負担がかからないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修会にはできるだけ参加する方針であり、今年9月よりスタッフ体制が整ったため、より多くの研修参加が可能になった。当日の職員からの話しでも、常に質の向上を目指し、このホームに従事していることを誇りに思うような話しも出ている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	連絡会やGH部会へ積極的に参加し、サービスの質の向上を目指すと共に、研修会を通じて、他事業所の職員との意見交換、交流も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な方には施設見学を勧めている。やむを得ず入居を急ぐ場合には家族等の協力のもと、混乱を最小限にスムーズにケアができるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯干し、料理やプリンターの水やり等、様々な役割を見つけ出し、職員と利用者が共に支えあう関係を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者の立場に立ったサービス」「その人らしい生活を支援」という理念の基、管理者、職員ともこれに添ったケアの実践がなされ、入居者それぞれの生活歴、意向等を把握し、一人ひとりを尊重した支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人及び家族等の要望・意見等を聞き、居室担当者がプランを見直し、カンファレンスで検討、その後計画作成担当者による最終確認を行っている。職員会議で確認することで共有化も図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しはもちろん、利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人・家族等の希望に沿うよう、かかりつけ医でも医療が受けれるよう支援している。また必要に応じて往診を依頼するなど利用者が適切な医療を受けれるよう医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化に合わせて、医師や家族等の協力を得、本人にとってより良い状況になるよう配慮している。	○	今後の利用者の重度化を考慮し、終末期に向けたケアのあり方を検討され、全員が方針を共有することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体的には、入居者を尊重し、プライバシーに配慮した声掛け、対応がなされているが、「慣れ」という部分からなのか、若干配慮に欠ける場面が見られた。記録等の個人情報については、しっかりとした管理がなされ、徹底されている。	○	認知症とは言っても感性があり、むしろ一般の人より高いとの意識を持って、一人ひとりの誇りを尊重し、常にプライドを大切にするケアを心掛けることが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、利用者一人ひとりのペースに合わせて支援するよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は入居者の状態に合わせて対応されている。調理や盛り付け、片付け等は出来る範囲で利用者にも参加してもらえよう声かけをし、また、職員は利用者と同じテーブルで同じ食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や2日に1回などそれぞれの希望に合わせて実施されている。現在午前や夜間の入浴希望者はない為、13:00～16:00の間で支援が行われている。	○	今後午前や夜間の入浴希望が出る可能性も含め、入浴可能な時間帯について再考されることを期待する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事やプランターの水やり、家事等でそれぞれの力を発揮できるよう様々な役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者に対してはそれに合わせて対応している。また、外出希望がない方に対しては、畑等へ誘い事業所内にももらないよう支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回火災避難訓練を行い、年に2回消防署の指導も受けている。また、地域の人々の協力も得られるよう、昨年末には地域への声かけを行い、合同の防災訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々に把握し、記録表にその都度記入することで職員が情報を共有している。利用者それぞれの咀嚼能力に合わせて食事形態も柔軟に対応し、また、定期的に管理栄養士による献立のチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者には不快感を与えないよう調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族等の協力を得た馴染みの品が置かれ、家庭的な雰囲気を有し、それぞれにあった居室環境作りがなされている。		